



《アラビア語辞典》タイトルページ 1505 年刊  
 神奈川大学図書館所蔵

## 目次

- 特集 新・特設コーナーのお知らせ  
 日本文学を外国語で読もう . . . 2 頁
- 横浜図書館からのお知らせ  
 図書館施設のリニューアルについて . . . 4 頁
- 平塚図書館から  
 小冊子「ピオトープの四季」の発行  
 一地の利を生かし自然に親しむー  
 名誉教授 松本正勝 . . . 5 頁
- 〔連載〕書物の歴史 3. タイトルページ . . . 6 頁
- 《図書館の所蔵資料紹介》  
 ビゴー 銅版画集『O-HA-YO』(おはよ) . . . 7 頁
- 図書館からのお知らせ  
 今号の表紙  
 編集後記 . . . 8 頁

## 図書館春のガイダンス



横浜図書館では図書館ツアー・OPAC利用ガイダンスを行います。奮ってご参加ください。

### ・図書館ツアー

4月4日(金)～4月12日(土)の8日間  
 12:25～12:45  
 16:20～16:40  
 1日2回実施します。(4月6日(日)除く)

### ・OPAC利用ガイダンス

4月21日(月)～4月26日(土)の5日間  
 12:25～12:45  
 16:20～16:40  
 1日2回実施します。

また、6月には映像セミナー「レポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」を行います。平塚図書館も各種ガイダンスを予定しております。詳細は図書館ホームページや掲示をご覧ください。

## 特集 日本文学を外国語で読もう

私たちは日本に住みながら、多くの外国文学に触れる機会があります。普段小説を読まない方でも、子供の頃グリム童話やアラビアンナイトを読み、エキゾチックな雰囲気にあこがれたことがあるのではないのでしょうか。

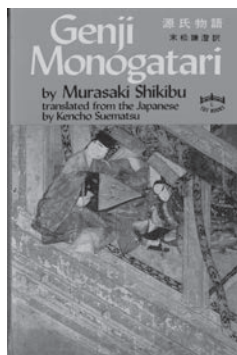
私たちが外国文学を楽しむように、日本の小説も多くの国で翻訳されて読まれています。今回、図書館では外国語で出版されている日本の小説を集めて、新しく『翻訳図書コーナー』を設置しました。コーナーには日本語版と外国語版をセットで配架していますので、ぜひ読み比べてみてください。同じ小説のはずが、あまりに表現が違うことに驚くかもしれません。ここでは有名な物語をいくつか紹介します。みなさんもよく知っているあの一節は、例えば英語ではどんな風に表現されているのでしょうか。



横浜図書館 1F 特設コーナー  
装丁の美しい復刻版もたくさん配架しています。  
すべて貸出できます。

### ■ 源氏物語／紫式部

美しく才能溢れる光源氏の、恋多き華やかな人生と苦悩に満ちた晩年を描いた物語です。英語版では平安時代の世界観を伝えるためか「女御」や「更衣」などはそのまま「Niogo」、「Koyi」と表現されています。



<日本語版>

源氏物語【請求記号：B918-8.A.1-113】

いづれの御時にか、女御、更衣あまた  
さぶらひたまひける中に

<英語版>

Genji Monogatari【請求記号：A913-65.B】

In the reign of certain Emperor, whose name is unknown to us, there was, among the Niogo and Koyi of the Imperial Court,

### ■ 平家物語／作者不明

鎌倉時代の軍記物語です。源平合戦を中心に平家の興隆と滅亡を描いたこの作品の根底には、仏教的無常観があります。英語版ではこの「諸行無常」を[Vanity:むなしさ、はかなさ][Evanescence:消えていく]と表現しています。

<日本語版>平家物語【請求記号 B918-15.A.1-113】

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。

<英語版> The Tale of the Heike【請求記号 B913-80】

The bell of the Gion Temple tolls into every man's heart to warn him that all is vanity and evanescence.

## ■ 羅生門／芥川龍之介

芥川龍之介は古典文学を題材とすることが多く、羅生門も『今昔物語集』を基にしています。「下人」とは物語の舞台である平安時代において、身分の高い人たちに従属していた者を指しますが、英語版では [samurai：サムライ] の [servant：従者] と表現されています。

<日本語版>

羅生門【請求記号：B918-C.7-108】

ある日の暮方の事である。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた

<英語版>

Rashomon, and other stories【請求記号：A913-117】

It was a chilly evening. A servant of a samurai stood under the Rashomon, waiting for a break in the rain



## ■ 雪国／川端康成

ノーベル文学賞を受賞した川端康成の代表作です。トンネルを抜けると…で始まる冒頭部分はあまりにも有名ですね。突然目の前に広がった一面の雪が目浮かぶような素晴らしい一節です。英語版では日本語版で描写されていない THE TRAIN が主語として登場し、やや客観的な目線で物語が語られます。



<日本語版>

雪国【請求記号：B918-D.20-108】

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。

<英語版>

Snow Country【請求記号：A913-143】

THE TRAIN came out of the long tunnel into the snow country.  
The earth lay white under the night sky.

## ■ 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド／村上春樹

高い塀に囲まれ、外界と隔絶された町で暮らす主人公の物語は、まさに村上春樹らしい不思議な世界を感じさせます。村上作品に共通する不思議な雰囲気は海外でも高く評価されています。

<日本語版> 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド  
【請求記号：B913.6-4-871】

エレベーターは極めて緩慢な速度で上昇を続けていた。

<英語版> Hard-boiled wonderland and the end of the world  
【請求記号：A913-206】

The elevator continued its impossibly slow ascent.



## 図書館施設のリニューアルについて

平成 25 年度文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」による横浜図書館グループ情報検索室と休憩コーナーのリニューアル（ミーティング・コーナーの設置）について

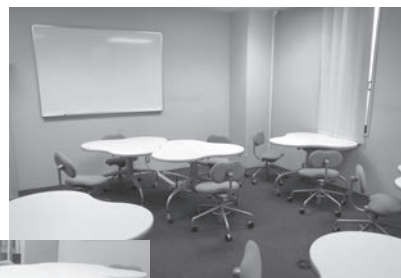
昨年、本学は「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」（申請 490 校中 192 校選定）、タイプ3「産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究」（申請 276 校中 104 校選定）の支援対象校に選定されました。この支援対象校に対してなされる「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」への申請が採択（241 校中 151 校）され、横浜図書館 2 階のグループ情報検索室と地階の休憩コーナーが整備されることとなり、今年の 3 月 6 日にリニューアルが完了しました。

今回のリニューアルは、机や椅子の入れ替えだけでなく ICT 機器の新規設置により学生の皆さんの多様な学習スタイルに対応できるようにすることを目的としています。



### 【2階 グループ情報検索室】

今までは、固定の机にノートパソコンを設置しただけでしたが、並べ方、組み合わせを変えることができる机と椅子に入れ替えました。また、壁には大きめのホワイトボード、専用のプロジェクターも設置しましたので、グループ学習や発表などに活用してください。利用申し込みは 2 階のレファレンスカウンターで受け付けています。



### 【地階 ミーティング・コーナー】

この場所は、休憩コーナーとして利用いただいていたが、簡単なミーティングなどもできるように整備しました。背もたれの高い椅子を置くことによって、なるべく隣が気にならないようになっています。また、電子黒板機能のある機器を導入しましたので、活用してください。



## 小冊子「ビオトープの四季」の発行 —地の利を生かし自然に親しむ—

名誉教授 松本正勝（元理学部 化学科教授）

湘南ひらつかキャンパス（SHC）ほど豊かな自然に恵まれたキャンパスは全国でもおそらく数少ないでしょう。キャンパスを取り囲む雑木林や湿地には多様な草木、昆虫、野鳥や小動物が息づいています。ただ、キャンパスは周りの川からかなり高いところにあるため水場が中心となった身近に親しめる自然がありません。

常に水があって太陽の光が降り注げば自然に草木や藻が育ちこれらを餌とする小さな生き物が棲みつき、さらにそれらを食糧とするもう少し大きな生き物が棲みつくでしょう。これらの生き物自体もやがて草木や藻の栄養となって循環します。こうして様々な生き物の棲息する空間ができあがります。そこでキャンパス建設時に復元湿地とされていた場所を整備し、小さな池を中心にしたビオトープ（biotope, biotope: 生物生息空間）を造ることになりました。2011年の5月のことです。SHC開設以来20年の歳月の中で灌木や雑草にすっかり埋もれていた小さな池と5つの水溜まりを水漏れがしないよう新たに作り直し、周りには湿地に相応しい草木や水草が植えられました。

生き物たちのちからには驚かされます。水の匂いが分かるのでしょうか、周りに赤土がまだむき出しの池にはオタマジャクシがすぐに現れました。何週間か経つと可愛いアマガエルの赤ちゃんがハンゲシヨウやガマの葉に留まっている姿が数多く見られました。それからしばらくするとシオカラトンボ、ギンヤンマやオニヤンマなどいろんなトンボがやってくるようになりました。

このようにして最初の夏、秋、冬が過ぎ、2年目の春夏秋冬を過ごしたビオトープはかなり自然の姿になりました。また、ビオトープに注ぐ小さな流れ（ホタル川）にはカワニナが随分前からが沢山棲んでいますので、これを餌にするゲンジボタルの幼虫を1年目、2年目と続けて放流しました。まだ数は少ないのですが立派に成虫まで育ち黄緑色の光を点滅させながらビオトープの林を舞う姿が6月初旬に見られるようになりました。

造られてから3年しか経ちませんが人が優しくそして少しだけ手を貸すことによりビオトープは驚くほど活気に満ちた生き物の空間になっています。キャンパス全体からみればビオトープはほんの小さな空間ですが、そこでは生き物たちのちからを凝縮したかたちで体験することができます。また、“光、水、空気そして大地”の上で成り立つ恒常性（ホメオスタシス、homeostasis）の世界を垣間見ることができるでしょう。そして次にはキャンパスとその周辺に目をやり、さらにもっと広い世界に視野が広がっていくものと願っております。

このような考えから素晴らしい自然の空間をレンズ越しに皆さんに少しでもお伝えしたいと思い、「ビオトープの四季」と題する小冊子を昨年の4月から毎月3回のペースで刊行してきました。これらの小冊子は平塚図書館の入り口に掲示され、そして理学部のホームページにも掲載されています。どれ位の人の目に触れているのかいささか不安ではありますが「継続こそ力なり」と思っております。

ところで本学は都市型のキャンパス（横浜）と郊外型キャンパス（SHC）を擁する日本でも数少ない大学です。それぞれのキャンパスがその強みを一層伸ばしていく中で今回の試みがSHCの恵まれた自然環境をより積極的に生かす一助となれば幸いです。



<湿地の植物や昆虫たちが最も生きいきとしている  
7月はじめのビオトープ>

これまでの連載では「パピルスと羊皮紙」「卷子本から冊子体へ」「冊子体のバリエーション」について解説しました。連載の第三回は、本を開くと最初に表れるページ「タイトルページ」について紹介します。

### タイトルページの誕生

本を開くとまず最初に「タイトルページ（標題紙）」といってその本のタイトル、著者、出版社名、出版地、出版年などが明記されたページが表れ、その次に目次や口絵、序文、本文へと続いていきます。現在でも特別に変わったデザインの本を除けば大部分の本はこのような形式で作られています。本は最初からこのような形式で作られていたわけではありません。

リュシアン・フェヴル、アンリ＝ジャン・マルタン著『書物の出現』によると、タイトルページが登場するのは1475年から1480年にかけてだとされています。それ以前の本にタイトルページは無かったのです。

フロイト《幻想の未来》初版タイトルのページ 1927年刊



### タイトルページがない本？

タイトルページがなければ、その本の書名をどうやって知ったのでしょうか？実は本の「書名」「タイトル」という概念自体、元から存在していたわけではないのです。タイトルページのない時代、本はすぐに本文から始まっていました。タイトルらしい記述があったとしても、その本の主題や著者が簡単に記されているだけのことも多かったのです。



《Sūma de arithmetica geometria proportioni e proportionalita 1494年刊》  
ページ上部にタイトルに相当するこの本の内容に関する簡単な記述があり、すぐに内容に入っている。

前述した『書物の出現』にはタイトルページの誕生に関する興味深い解説があります。書物の最初の紙葉の表ページが他のページに比べて汚れやすいため、テキストの冒頭を汚損から守ろうと裏ページから印刷を始めたことで最初の表ページが空白になり、その空白のページに簡単な著作に関する情報を印刷するようになった、というものです。こうしてタイトルページがつけられるようになりました。

### 装飾され、情報が詰め込まれるタイトルページ

15世紀末にはほとんどの本にタイトルページがつけられるようになりました。次第にタイトルページは美しく飾られるようになります。タイトルを囲む縁飾りが銅版画で描かれるようになると、タイトルページは本の書名や著者名などの情報を伝えるよりも、図柄の制作に力が入るようになります。一方、タイトルページに多くの情報を記載する傾向もありました。タイトル自体も長くなり、その本の宣伝文句や二行詩まで詰め込むようになり、現在のタイトルページとはかなり異なったものになっています。

その後、タイトルページは現在の体裁に近い、美しく読みやすいものへと変化していきます。 [続く]



左：《ユークリッド幾何学原本 下巻 1589年刊》

左にアルキメデス、右にユークリッドの像を配し銅版画で装飾された中央にタイトル等に関する記述がある。

右：《The London Tradesman 1747年刊》

将来小売商になる青年のための職業指導の本。上半分を占める長い記述が全てタイトルである。その下には収録内容と宣伝文句、出版事項が続く。

※掲載の資料は全て神奈川大学図書館蔵

銅版画集「O-HA-YO」(おはよ) / Georges Ferdinand Bigot  
 — 青年ビゴーが描いた明治期の日本人 —

1882(明治15)年、一人の若者が横浜の港に到着した。1860年にフランスで生まれた青年は、優れた才能によって12歳で国立美術学校(エコール・デ・ボザール)に入学、16歳で家計を助けるために学校を中退して新聞、雑誌の挿絵画家をしていた。当時ヨーロッパでは“ジャポニスム”というブームが起り、日本の美術や工芸品などが人気を集めていた。見知らぬ国日本への関心が高まったこの時代、彼もまた日本の浮世絵や工芸品に魅了され、浮世絵木版画を学ぶために日本へやってきたのである。異国で22歳の誕生日を迎えた青年は故郷フランスの母に送るために侍姿で写真を撮った。青年の名はジョルジュ・フェルディナン・ビゴー、明治期の日本で18年間を過ごし、諷刺雑誌「TÔBAE」を発行するなど、その優れた観察眼をもって明治の日本社会と日本人を見つめ、時には辛辣な諷刺画を描いた事でよく知られる画家である。



日本に到着したビゴー青年は陸軍士官学校の画学教師の職につき、そのかわらで浮世絵の修業に励むが、当時、浮世絵はすでに衰退期に入っていた。

浮世絵師の多くが新聞や雑誌の挿絵画家に転じていった頃で、失望したビゴーは銅版画や油彩、水彩画で明治期の日本人の風俗を描くようになる。陽気で人懐っこいビゴーは市中を歩き回り、下町の人々に声をかけその姿を描いた。絵のモデルを探しに訪れた花街の女性達とも数々の浮名を流し、箸を器用に使い、いつも白足袋を履いたユニークな外国人として積極的に日本の生活を楽しんでいたようだ。



門付女

銅版画集「O-HA-YO」(おはよ)は、日本に来て二年目、23歳のビゴーが、外国人居留地に入出入りする旅行者の土産や本国フランスへ輸出する画集として出版した作品である。描かれているのは菓売り、下駄の歯入れ屋、役人、花魁、托鉢僧、郵便配達人など、明治期のまだ近代化されていない様々な職業の人々がビゴーの新鮮な眼差しをもって捉えられている。裸足で門前に立って唄う「門付女」や着物姿で丁髷を結び眼鏡をかけて洋服を仕立てる「洋服仕立屋」などにはリアリズム主義者としての画家、ビゴーが感じられる。

1887(明治20)年ビゴーは諷刺雑誌「TÔBAE」を創刊するが、居留地における外国人の自由な出版活動は不平等条約の改正を機に不可能になる。日本人女性佐野マスと結婚し一児をもうけたビゴーであったが、時局諷刺画集の不発による生活の不安や、外国人に対する不当な扱いも重なり条約改正直前の1899(明治32)年6月、欧米化していく日本と日本人への失望とともに息子を連れてフランスへ帰国する。

多くの日本人に知られるビゴーとは、鹿鳴館に入出入りする洋服姿の日本人を辛辣に諷刺した絵や、教科書で見た「漁夫の利」などの絵で鋭い批判精神を表現した画家としてではないだろうか。しかしこの画集では明治期の日本人に対する画家の温かい眼差しが感じられる。日本にあこがれ、日本の生活を愛しやがて失望し祖国へ去って行った諷刺画家。「O-HA-YO」は、若き日のビゴーが日本で過ごした幸せな人生の一時期に描かれた作品である。



洋服仕立屋

O-HA-YO : ALBUM ; Une Chasse / Georges Ferdinand Bigot

請求記号 : A726-44 (横浜 貴重書庫)



## 図書館からのお知らせ

### 横浜・平塚共通

#### ◎春季長期貸出期限日

2014年4月7日(月)

返却期限日までに必ず図書館に返却してください。

延滞すると延滞日数分(最長2週間)貸出停止になります。

#### ◎図書館を利用する際は学生証が必要です。

入館ゲートを通るとき、図書を借りるときに学生証が必要です。

#### ◎ガイダンス

横浜図書館では4月に図書館ツアー・OPAC利用ガイダンスを行います。また、6月には映像セミナーを行います。「レポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」についての映像を上映します。奮ってご参加ください。詳細は図書館ホームページや掲示をご覧ください。

#### ◎盗難への注意

貴重品(財布、携帯等)は席を離れる時、必ず身につけてください。

#### ◎マナーを守りましょう

下記の迷惑行為は止めましょう。

- お喋り
- ヘッドフォンの音漏れ
- 携帯電話の使用(通話)
- 指定場所以外でのパソコン、電卓の使用
- 飲食

#### ◎図書館では館内で利用できるノートパソコンの貸出も行っています。是非ご利用ください。

### 編集後記

クローチアに「運命」というおとぎ話がある。毎日一生懸命畑で働く兄と、遊んで暮らしている弟の話である。弟は遊んでばかりいるのに裕福になり、勤勉な兄には次々と災難が降りかかる。兄はなぜ自分だけ不運に見舞われるのかを知ろうと「運命」の住みかを訪ねて行く。

夜になると猛々しい声が「運命」の館にとどろく。『今夜たくさんの魂が出てきたぞ、運命。彼らはお前の贈り物を待っている』。兄が見ていると運命は起き上がり、金や宝石を撒き新しい魂に恵んでやる。次の夜も同じ声がとどろき、今度は銀貨が新しい魂に撒かれる。次の夜には銅貨、最後の夜には小石と小銭が撒かれる。全てを見ていた兄に運命は言う。金と宝石の日に生まれた者は生涯金持ちに暮らす。小石と小銭の日に生まれた者は生涯貧しく暮らす。お前の弟は金と宝石の日に生まれ、お前は小石と小銭の日に生まれたのだ、と。

このおとぎ話はアラン・B・チネン著『大人のための心理童話』に収録されている。運命の前では努力や勤勉など無駄だと言わんばかりのこの話にはさらに続きがあり、我々が慣れ親しんだ価値観からは予測のつかない展開をする。だがそこには人生に対する重要なメッセージが隠されており、それを読み説くためには大きな視点が必要になる。

思いもよらない物語に出会った時、ある人はそれを理解して自分の視点を広げようとし、ある人はそれを拒み無視しようとする。おとぎ話の兄は最後には大きな視点を獲得する。どちらを選択するかは人それぞれである。図書館では様々なものの見方や価値観に出会える本がたくさんある。

(N.E.)

## 今号の表紙

### “Vocabulista aravigo en letra castellana”《アラビア語辞典》1505年刊

16世紀初頭にスペインのグラナダで出版されたアラビア語辞典。当時はムーア人に対する布教活動のために辞典や文法書などが出版された。グラナダ大司教の紋章がタイトルページの大部分を占めている。